

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業名	一般国道337号 当別バイパス			事業	一般国道	事業	国土交通省
起終点	自：北海道石狩郡当別町 蕨岱 3106番地 至：北海道石狩市生振			区分		主体	北海道開発局
延長							15.4 km
事業概要	<p>一般国道337号道央圏連絡道路は、北海道の空の玄関口である千歳市を起点に当別町、石狩市を經由し小樽市に至る延長約80kmの主要幹線道路である。このうち当別バイパスは、重要港湾石狩湾新港へのアクセス機能を強化するとともに、現国道の線形不良、平面踏切を解消し、道路交通の安全性、確実性の向上による物流の効率化と地域プロジェクトの支援を目的に昭和55年に事業化され、整備が進められている延長15.4kmのバイパス事業である。</p>						
S55年度事業化	S52年度都市計画決定		S57年度用地着手		S56年度工事着手		
全体事業費	約506億円		事業進捗率	67%		供用済延長	15.4 km
計画交通量	37,600台/日						
費用対効果分析結果	B/C	総費用		総便益		基準年	
	(事業全体)	(残事業)/ (事業全体)		(残事業)/ (事業全体)		平成16年	
	2.4	130/689億円		252/1,635億円			
	(残事業)	(事業費：130/652億円) (維持管理費：0/38億円)		(走行時間短縮便益：224/1,459億円) (走行費用減少便益：10/130億円) (交通事故減少便益：18/46億円)			
感度分析の結果	事業全体について感度分析を実施						
交通量変動	B/C=2.6 (交通量+10%)		B/C=2.1 (交通量-10%)				
事業費変動	B/C=2.2 (事業費+10%)		B/C=2.5 (事業費-10%)				
事業期間変動	B/C=1.9 (事業期間+20%)		B/C=2.9 (事業期間-20%)				
事業の効果等	・国土・地域ネットワークの構築（地域高規格道路（道央圏連絡道路）の位置づけあり） ・物流効率化の支援（重要港湾へのアクセス向上）						
関係する地方公共団体等の意見	他8項目に該当						
事業の進捗状況	関係する地方公共団体等の意見は、5市3町の首長で構成される道央圏連絡道路整備促進期成会・関係6市1町3村の首長で構成される北海道石狩地方開発促進期成会より、毎年事業促進の要望を受けている。						
事業の進捗が順調でない理由	事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 昭和62年に北海道教育大学が「あいの里」に移転 平成元年に土地区画整理事業により「あいの里ニュータウン」宅地開発開始 平成15年4月に石狩湾新港がリサイクルポートに指定される 平成15年4月に石狩湾新港が港湾物流特区の認定を受ける						
施設の構造や工法の変更等	事業の進捗状況、残事業の内容等 昭和63年札幌大橋が完成。平成14年度の暫定供用により国道275号と接続され、国道337号のルートが変更されている。引き続き残りL=9.6kmの4車化に向けて、工事の進捗を図る。						
再生材の活用	事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 引き続き工事を促進し、平成20年代中頃の事業完了を目指す。						
再生材の活用	施設の構造や工法の変更等 再生材の活用、浚渫土の活用、軟弱地盤における真空圧密工法の採用等によるコストの縮減を図っている。						
対応方針	事業継続						
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。						
事業概要図							

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。